

広 報

# ふじがわ

10月号

昭和55年10月20日発行

No. 231

## 町のメモ

昭和55年10月1日現在

人口	17,041人
増減	+ 15人
男	8,464人
女	8,577人
世帯数	4,285世帯
面積	31.09km <sup>2</sup>

富士川町 総務課



こんなはずじゃなかった

(表紙のことは2ページに)

町の今年目標

「きれいな町にしましょう」

# 松野児童館建設や 道路・都市下水路工事を主体に 1億5,570万円を補正

町議会の9月定例会は、9月24日(水)午後9時から議場で開催され、常葉町長の一般行政報告を皮切りに、昭和54年度一般・国保・土地取得・水道会計歳入歳出決算の認定や、昭和55年度一般会計補正予算、教育委員の任命につき同意を求め、町議会の議員の報酬および費用弁償に関する条例の一部を改正する条例、町特別職の職員で常勤の者の給料等に関する条例など、十二議案が審議されずべて原案どおり可決されました。

町議会の議員の報酬および費用弁償については、議長月額報酬十六万五千円(現行十五万円)、副議長十三万円(現行十二万円)、常任委員長十二万円(現行十一万円)、議員十一万円(現行十万円)となり、9月1日から実施されます。

町特別職の職員で常勤の者の給料については、町長四十九万七千円(四十五万円)、助役四十万七千円(現行三十七万円)、収入役三十九万九千円(現行三十五万五千円)となり、9月1日から実施されます。

## 一般行政報告

### 中央公民館建設に一歩前進

12月25日までに野田紙業が建物明け渡すことで、野間奉公会と野田紙業の間で9月16日和解が成立しました。これにより、町としては建物を取りこわした後に広場として有効利用をし、町民のみなさんの願望でもあり、コミニティセンターとしての機能を有する中央公民館建設に具体的に対処していきます。

なお、中央公民館建設基金は、昭和54年度末で一億六千万円が積み立てられています。

民間設置者と設置申請手続きを進めてきましたが、去る7月31日、県知事の進達書を添付し、設置者により文部大臣あて認可申請がされました。この女子短大の名称は「富士ソフィア女学院短期大学」で、社会科学科社会学・法学専攻です。

予想される東海大地震に備える防災対策は、昭和55年度地震対策事業の総事業費は五千五百七十五万円で、自主財源一千九百九十八万円、県の地震対策交付金一千七百四十五万円となっています。また結成率百割の自主防災組織が自主的に組織を充実させていくため、7月1日から一ヵ月間、町内十八会場において「自主防災研究会」を開き、一千百人の出席がありました。

秋晴の10月5日「健康な明るい町づくりを」スローガンに、町をあげてのスポーツの祭典「町民体育大会」が行われた。町立第一中学校グラウンドは、まるで先に行われたモスクワオリンピックが、テレビの画面から抜け出てきたような、カラフルなスポーツウェアを着た黒山の人で埋めつくされ、トラックの回りには各地区のテントが所狭しとばかり立ち並んでいた。

## 教育委員に

秋庭氏が再任  
上野氏が新任

五名の町教育委員の内、灘上謙一、秋庭正和両教育委員が9月30日をもって任期満了となりました。

そこで町長は、秋庭教育委員の再任と新たに上野直記氏(南町一)を教育委員に任命するため、9月定例会には、議会の同意を得た後、10月1日から向う四年間、両氏を同委員として選任しました。

秋庭教育委員(本通り四)は、昭和51年から本年までの一期四年間、同委員として活躍されている現役のパリパリです。また、新任の上野教育委員は、年齢も三十三歳と若く行動力もあり、今後の活躍が期待されます。



秋庭正和氏



上野直記氏

## 補正予算の内容

### 総務費に 一千二百二十万円

庁舎屋上冷却塔改修工事、庁舎消防所・町長室改修工事他に 八百八十八万円

### 民生費に 四千四百六十七万円

簡易老人憩いの家建設工事追加分、外流し台設置工事に 五百三十万円

松野児童館設計管理委託料に 百九十四万円

松野児童館建設工事、中沢・八坂神社遊園地広場フェンス工事に 三千五百四十三万円

### 農林水産業費に 三百三十四万円

みかん園転換事業、高接穂木供

### 土木費に 六千九百三十八万円

煙突解体および付帯工事、富士川製紙避難地造成工事に 四百八十五万円

道路台帳整備委託料に 六百十七万円

原地球線改良工事追加分、血流川左岸道路工事、町道新町川坂山線改良工事に 二千六百三十五万円

小池沢改修工事追加分、寺沢改

耐震性防火水槽(百ト)築造工

### 消防費に 一千四百二十二万円

耐震性防火水槽(百ト)築造工



町民の知る権利を重視し「行政情報」の公開を検討  
町の動きや町議会の様子は、町

を含め岳南二市一町、庵原三町による「国道一号富士川橋架替促進期成同盟会」は、建設省ならびに本県と山梨県選出の衆参議員に対し8月21・22日に陳情を行いました。また9月8日、斎藤建設大臣が来富の際、町としても陳情し、大臣および建設省関係局長も現地を視察され、同橋架替の必要性を理解された手応えを感じました。

今後、人口増が見込まれる松野地区に対し、地理的条件等をも含め住民サービスの向上に、役場窓口で交付される諸証明業務についてファクシミリの導入を検討しています。

ご理解とご認識をいただきたいと思えます。

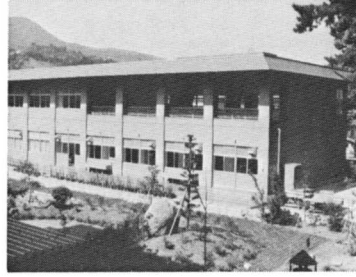
「住民サービスの向上にファクシミリ導入を検討」



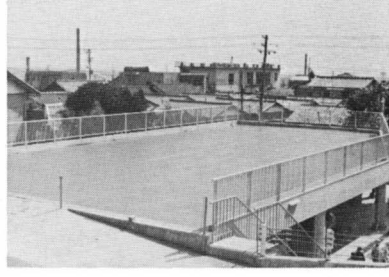
# 昭和54年度 町の家計簿 一般会計で使ったお金 二億七、〇五四万円

昭和54年度 町のけっさん		
	歳入	歳出
一般会計	23億0,571万円	21億7,054万円
国民健康保険	3億3,060万円	3億0,825万円
土地取得	7,305万円	6,551万円
水道事業	1億0,937万円	7,861万円
収益的収支	3,850万円	7,645万円
資本的収支		

## 主な建設事業



第一中学校特別教室



役場前駐車場



農免農道

私たちのまち、富士川町の昭和54年度の決算が、町議会の9月定例会で審議され、収支が正確に行われていることとで認定されました。そこで、その内容について少し話してみたいと思います。

私たちの身の廻りの環境を整備し「明るく豊かな住みよい町づくり」のための町の台所は、みなさんの税金や国、県の補助金などでまかなっています。昨年度はどうだったでしょうか、ここで振り返ってみましょう。なお、詳細については、12月に「財政事情の公表」を発行します。

一般会計決算に触れる前に、特別会計決算について少し述べてみましょう。

まず国民健康保険会計は、歳入額三億三千六十万円に対し、歳出額は三億八百二十五万円となり、

昭和55年度へ二千二百三十五万円が繰越されました。国保の歳出でトップを占める保険給付金（二億八千五百四十七万円）をみると、この中には診療報酬支払いがあります。これは、みなさんが病院にかかった時、三分分は自己負担ですが、残りの七割の国保負担分のことです。その他にも高額療養費、助産費、葬祭費などがあります。

つぎに土地取得会計は、歳入額七千三百五十五万円、歳出額六千五百五十一万円となり、差引額七百五十四万円が55年度へ繰越されました。

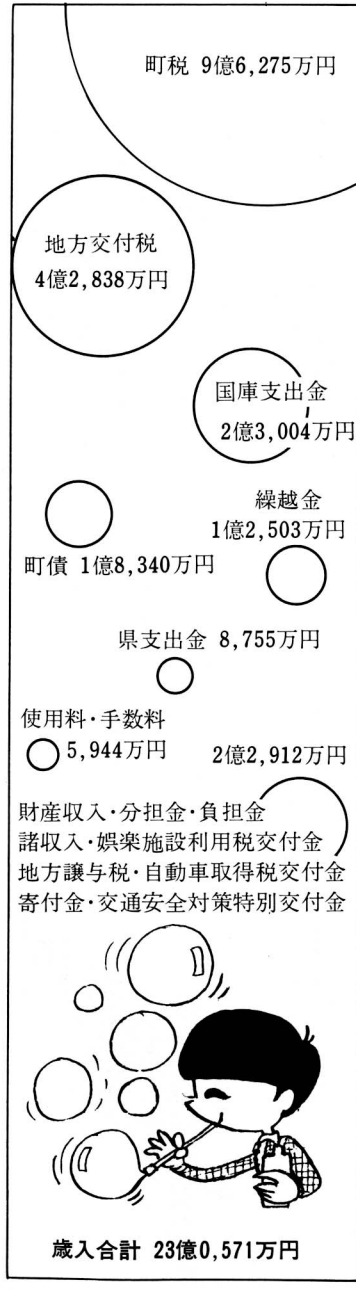
最後に水道事業企業会計は、収益的収支勘定と資本的収支勘定に分けて説明します。収益的収支勘定では、収入額一億九百三十七万円、支出額七千八百六十一万円となり、差引額一億九百三十七万円が純利益となりました。このような赤字が出た理由は、昨年4月1日からの水道料金アップが上げられます。また資本的収支勘定は、収入額三千八百五十万円、支出額七千六百四十五万円となり、差引額三千七百九十五万円の赤字となりました。この不足財源は、昭和54年

一般会計は、歳入額二十三億五百七十一万円に対し歳出額二十一億七千五百四十四万円となり、55年度へ繰越額は一億三千五百七十七万円となりました。これは昨年の繰越額（一億二千五百三十三万円）を約一千万円上回っています。

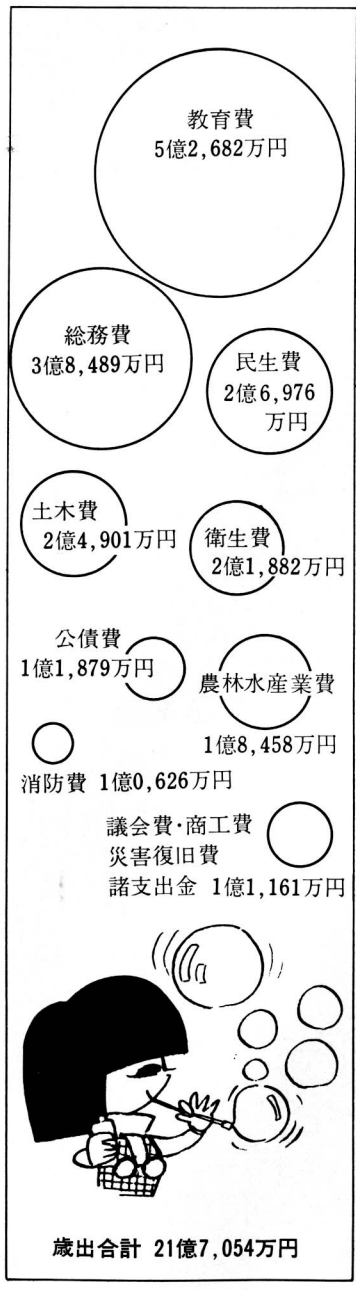
歳入は、予算現額（二十三億一千五百三十三万円）に対し二〇・一八割の収入率です。また、歳出は予算現額（二十一億七千五百四十四万円）に対して九五・八割の執行率となっています。

収入率増加の主な原因には、みなさんの納税意識の高揚による町税の増加や地方譲与税、県支出金、財産収入などの増があります。

## 別の状況



## 一般会計目的



## 自主財源は五六・五%に

まず歳入からみてみましょう。収入では、みなさんや事業所から納められる町税が最も多く、全体の四一・八割を占めています。つぎに地方交付税一八・六割、国庫支出金一〇・〇割、町債八・〇割、繰越金五・四割、県支出金三・八割となりませう。

ところで、町の財政力を示す自主財源の収入額に対する割合はどうなっているのでしょうか。これについてみてみると、自主財源の

## 教育費が歳出のトップ

収入額に対する割合は五六・五割。また国や県にたよる依存財源は四三・五割です。この自主財源の占める比率を53年度と比べると、三・二割前年度を下回りました。

それでは、歳出をみることにしましょう。

まず歳出の構成比をみると、教育費がトップで、全体の二四・三割を占め、ついで総務費一七・七割、民生費一二・四割、土木費一・五割、衛生費一〇・一割、農

## 歳出を性質別に

林水産業費八・五割、公債費五・五割、消防費四・九割、その他五・一割の順となっています。

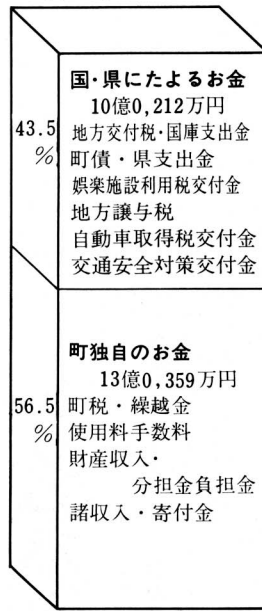
つぎに歳出を性質別に分けてみると、普通建設事業費が一番多く全体の三四・六割です。この内容をみると――

役場前駐車場建築工事、広報無線局（上町、宮町、大築窪、吉添、池野、粒良野、大代、中山）工事、老人憩いの家ゲートボール場工事、農免農道工事、四十九農道工事、吉津金丸線工事、吉津小山線工事、上町吉津線新設工事、上町室野線改良工事、土沢護岸改

修工事、新都市下水路工事、本通り水路工事、第一中学校特別教室棟改築工事、原方池野線災害復旧工事が主なものです。

では、話を元にもどすことにしましょう。ついで町職員の人員費が二六・四割、補助費五・九割、物件費一一・四割、積立金が六・四割、この中には中央公民館建設基金積立金として九千六百二十三万円（町費積立と寄付積立）が含まれています。続いて公債費が五・五割、生活保護費などの扶助費三・二割、その他〇・八割などとなっています。

## 自主財源の状況





# 戸籍の窓

55・9・1〜9・30

(敬称略)

## おめでた

区名	出生児	保護者続柄
相生町	寺下 茂明	生夫 三男
新町	鈴木 貴士	常保 二男
新町本町	伊東 里香	康一 三女
村上洋一郎	藤四郎	長男
四十九町	石川 真希	和正 二女
宮町	杉山 詠美	勉 長女
小池	櫻井 美幸	賢一 二女
幸町	佐藤 祐樹	好男 長男
東町一	望月奈緒子	嶺 長女
花田	真隆	久由 長男
南町一	望月 雄介	政信 長男
小林由佳理	岩根 長女	
南町二	錦織裕佳子	榮三 二女
富士見町	大石 桂	謙二 二男
八幡町	天野 智子	明 二女
富士松野	佐野美由紀	了 長女

清水町	稲葉 隆祥	功 長男
大北町	宇佐美和久	茂 長男
儘下町	小澤 義典	義正 二男

## かなしみ

区名	氏名	年齢
相生町	梅原 彌作	七四
旭町	花田 はな	七五
川坂	箕 サト子	六七
南町一	佐野 たけ	七一
富士見町	小林 清一	七二
八幡町	望月 義貞	五三
清水町	小池秋太郎	七五
佐田	敏久	五六
神戸	さだ	五四

## かしこい

### 消費者コーナー

製造年月日の表示義務づけは  
どんなものにありますか？  
県では消費者保護条例に基づき  
製造年月日の表示をしなければなら  
ない食品として、豆腐、油揚げ  
納豆、こんにやく、食パン、油菓  
子の六品目を挙げています。

野菜をおいしく無駄なく食べ  
るには、やはり「しゅん」のもの  
がいいですか？  
自然の中で育った出盛期「しゅ  
ん」の野菜は、色や香りがよいた  
りです。そのうえ価格にしても割  
安です。たとえばトマトを例にと  
った場合、ビタミンCの含有量を  
見ると、ハウス栽培のトマトに比  
べ「しゅん」のトマトには二倍の  
ビタミンCがあります。

またエネルギーについて見ても  
多量の差があるわけで、冬に出荷  
されるトマト一キの生産には牛乳  
ビン約八本分(一・六歳)の石油  
に相当するエネルギーが必要とな  
ります。これは、実に夏どりの約  
二百七十倍です。ちなみに、きゅ  
うりの場合は五十五倍、ピーマン  
は百十倍が必要です。

消費生活相談員は——  
斎藤すみえ 小林とし子  
小川 慶子 小林 正子

# 富士川短歌会

9月詠草(天野寛選)

宮町 浦田 次子

来る秋の初孫誕生の予定日は吾が  
五十歳の誕生日なり  
新町 深沢千代子

ずず虫の今さかりなり夜もすがら  
鳴きつづけているこの一夏を  
相生町 藤沼 満

一泊の温泉行を約したる老夫の友  
はあえなく逝けり  
本通り 望月 録

曼珠沙華燃え咲かたへの雑草に  
からみていくつ風顔の花  
四十九 八月 弘子

しまい湯に浸りつ乳房おして見る  
わが父母は癌に逝きたり  
四十九 塩川 恒子

可搬ポンプ油火災消火の訓練をこ  
ぞりて学ぶ今日防災の日  
旭町 吉田 令子

蛍光燈替えし茶の間の灯の下に今  
宵しみしみ本を読みいる  
上町 水口 大礼

孟宗のおどろ集めて箒作る歌碑記  
念日の朝の庭に  
四十九 辻 すみじ

眺め良きこの寺庭に歌碑建ちて永  
久に残りむくちることなく  
坂下 植松 秀子

魅せられて時忘れ読む方丈記但馬  
野の風屋根に鳴りあて

## 一里塚



早いもので、ドブプリとぬるま湯につかっていた学生生活から抜け出して半年が過ぎた。学生時代はとて田舎が懐かしく思われたが、こちらに住んでいる今、逆に東京での生活が懐しく思われてくるから不思議である。

スーパーマーケットに行き、野菜などを買ひ込み、腹をすかせながら手料理を作ったこと。一週間以上もため込んだ洗濯物を抱え、コインランドリーに通ったこと。

また、大学の四年間籍を置いていた競走部(陸上部)の監督のこ

わい顔。彼は練習の前には、必ず一時間以上もお説教をしていた。その中で特に印象に残っているのが「お前ら草を喰つたら、もつと記録が伸びるから草を喰つてみる」と言っていて、グラウンドの草を自らむしって喰べたことだ。誰でもこれくらいは言えるだろうが、目の前で行動に移されると驚いてしまふ。今考えてみると、当時バラバラにならかけていた部員のチームワークが、彼のこの行動によってキャプテンを中心にまとまり、それ以後は全員スポーツ刈りにもし、競技に無心で打ち込むことができた。

このような、ちよつとしたことを機に、自分を含めた仲間がまと

ま

## 町へ寄付金

(敬称略)

まっけていけるということは、現在の職場でも通ずるところがあるのではないか。私はこれからの人生いろいろなことがあると思うが、彼から受けた教訓を忘れずに、また「天才は有限であるが努力は無限である」という言葉を心に刻みこの職場で頑張っていきたいと思

五百万円 町社会福祉事業基金へ

百万元 東京都 野田 力三

一万元 中央公民館建設基金へ

八幡町 望月 昇

川坂 義孝

中央公民館建設基金へ

斎藤すみえ 小林とし子

小川 慶子 小林 正子